



人間科学部 人間科学科 團 康晃 (だん やすあき) 講師

ケータイ小説が変えた中学校でのコミュニケーション ソーシャルメディアで小説はどのように作られる？

■ 朝の読書運動でケータイ小説が学校で読まれ、中学生のコミュニケーションが変わった。

社会学やメディア論が専門の團康晃講師は、子どもの読書環境にソーシャルメディアがどのように影響するか、文化社会学的研究を行っています。研究のスタートは、九州の公立中学校で2009～2011年に実施したフィールドワーク。学校での読書や遊びなどについて知るため、生徒たちと長期間過ごして観察やインタビューを行いました。すると、本好きの限られた生徒が静かに読書をしているという想像とは異なり、書籍化されたケータイ小説をたくさんの子供が熱心に読んでいました。2001年の「子どもの読書活動の推進に関する法律」によって「朝の読書運動」が普及し、生徒たちが好きな本を持ち込んだ結果、ケータイ小説などのソーシャルメディア上で書かれた文章が読まれるようになっていたのです。生徒たちはケータイ小説の貸し借りをし、おしゃべりの話題にしていました。

團講師は現在、学校図書館調査を利用して小中学生が読んだ上位10位ランキングを分析し、子どもたちの読書経験の変化を探る研究を行っています。

■ 書き手と読み手が近いオンライン小説投稿サイト。コメントが小説に影響する例も。

團講師はこのほか、ソーシャルメディア上で小説が作られる過程の研究も行っています。現在、ケータイ小説やオンライン小説投稿サイトなどのソーシャルメディア上の人気作品から紙の書籍やアニメ、映画が次々と生まれており、有名な例としては映画やアニメになったベストセラー小説「君の膵臓をたべたい」（住野よる）があります。

オンライン小説投稿サイトでは、話を1話ずつ投稿することができ、その話に付けられた読者の感想・コメントを作者が読んで作品に影響を受ける場合があります。團講師は、投稿サイト「小説家になろう」に掲載され、TVアニメ化が決まったファンタジー小説「無職転生—異世界行ったら本気だす—」の過去の「感想欄」を対象に、小説執筆過程の作者と読者のやりとりの分析を行いました。興味深い例として、主人公の少年が父親から攻撃される描写に対し、「児童虐待だ」といった感想が相次ぎ、小さく炎上したことがありました。作者は「父親なりの意図がある」ことを感想欄に投稿したものの批判は収まらず、後で父親視点の文章が足されました。

團講師は「ソーシャルメディアは作者が読者のニーズを拾いやすくなっている。ある種の読者層に最適化されたエンタメを生み出すための場になっている」と言います。さらに「こうしたオンライン小説投稿サイトからベストセラーが出て、一般にはあまり知られていないことが多い。これは、読者層がソーシャルメディア上ですみ分けられていて、その読者層以外にはその小説がどういうものなのか見えにくいからだと考えられる。そして、こうした場で生まれたコンテンツが、学校の中の読書ともかかわっている可能性があるのではないかと話しています。

團康晃講師 プロフィール 詳細はこちら⇒ <https://webj8.osaka-ue.ac.jp/ouehp/KgApp?resId=S000194>

1985年生まれ、長崎県出身

経歴：2011年東京大学大学院学際情報学府博士前期課程修了、2020年博士号（社会情報学）取得。
2017年から現職。

著書・論文：「楽しみの技法：趣味実践の社会学」（近刊予定・共著、ナカニシヤ出版）、「子どもの豊かな学びの世界をみとる—これからの授業分析の可能性」（近刊予定・共著、新曜社）、「社会にとって趣味とは何か：文化社会学の方法規準」（2017年、共著、河出書房新社）「学校の中の物語作者たち—大学ノートを用いた協同での物語制作を事例に」（2014年、子ども社会研究）、「学校の中のケータイ小説 ケータイ小説をめぐる活動と成員カテゴリー化装置」（2013年、マスコミュニケーション研究）

所属学会：日本社会学会、日本マス・コミュニケーション学会、三田図書館情報学会、日本ポピュラー音楽学会

< 本件に関するお問い合わせ先 >

大阪経済大学 経営企画部広報課 高濱・白神 Tel : 06 - 6328 - 2431 Mail : kouhou@osaka-ue.ac.jp
大阪経済大学 広報デスク (プランニング・ポート内) 福嶋、山村 Tel : 06 - 4391 - 7156

<https://www.osaka-ue.ac.jp>